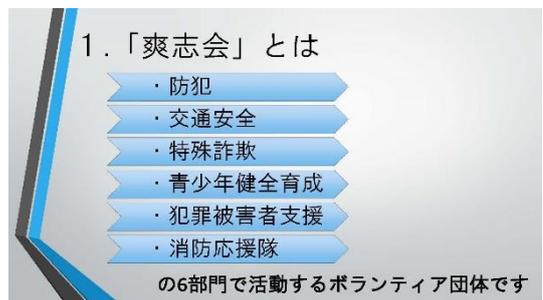
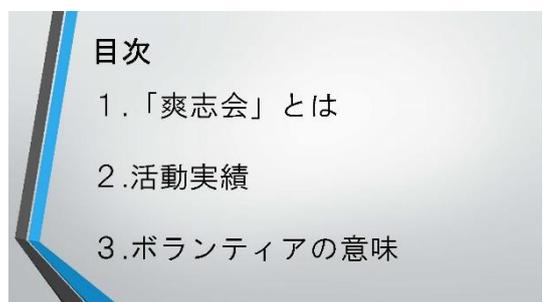


## 環太平洋大学爽志会（岡山県）

皆さん、こんにちは。私たちは岡山県にある IPU 環太平洋大学から来ました、環太平洋大学爽志会です。今回は代表の塩村と副代表の早崎泰晟が、活動の発表をさせていただきます。本日は、どうぞよろしくお願いたします。

本日は大きく3つの構成に分けて、発表させていただきます。



最初に、爽志会の紹介を簡単にさせていただきます。爽志会は2016年に発足した、今年で6年目となる学生ボランティア団体です。現在は50名が参加しております。爽志会では、スライドに示しているように防犯活動、交通安全活動、特殊詐欺の啓発活動、青少年健全育成、犯罪被害者支援、消防応援隊の6つの部分を土台として、それぞれにリーダーを据えながら活動しています。今回はこれらの活動の中から、防犯部門を軸として6つの活動内容を説明し、私たちの取組や考え方を皆さんにお届けできたらと思います。よろしくお願いいたします。



1つ目に紹介するのは、セイフティメイツについてです。セイフティメイツは、岡山県の防犯意

識の高揚を図る地域安全活動の広報スタッフで、1986年から活動が行われている歴史ある活動です。現在、IPU環太平洋大学爽志会からは3回生の女性1名が参加して、小学生の下校を見守る見守り隊として活動しています。この活動からわかるように、私たちの活動は外部との連携も多く、既存のボランティア団体に参加させていただきながら人脈を広げ、たくさんのボランティア団体に触れ、良いところを吸収し、私たちのボランティアを成長させてきました。

2つ目は、スライド左側の写真、自転車で通学する学生に対して行う施錠の呼びかけです。本学の駐輪場は、防犯カメラや駐車を制限するバリエードがなく、防犯上安全とは言えません。そのため、少しでも盗難を防止するために、施錠を定期的に呼びかけています。本学ではこの活動から、通学以外の日常生活でも2ロックをするように呼びかけています。

2つ目はスライド右側の写真です。この写真は駅前で犯罪防止のための啓発活動を行っている様子です。他にも、大学付近のビール会社と連携した飲酒運転防止啓発活動や、夜道での犯罪防止のためのパトロール活動を、警察の方や地域のボランティアの方と連携して行っております。



3つ目に紹介するのは、交通安全についてです。本学では毎年、警察の方と協力した交通安全講習を実施しています。このことから爽志会は、自分たちの大学だから少しでも手伝いたいという考えのもと、資料作りを行いました。その時の様子や準備の段階を紹介させていただきます。

昨年6月、赤磐警察署交通課に指導いただきながら岡山県運転免許センターに行き、交通安全講習会で使用する映像教材の撮影を行いました。車両を模した置物を用意し、実際に車両が衝突した際の映像を撮影しました。映像を撮りながら実際に衝突する瞬間を目の当たりにし、その威力と怖さを肌で感じました。この体験から、より啓発の心は高まったと思います。その他にも、飲酒ゴーグルや自転車でイヤホン装着しながらの運転、あおり運転を注意する映像教材を撮影し準備を終えました。では今から実際に、飲酒ゴーグルを着用した歩行の様子を御覧いただきたいと思います。

#### 【実演】

今見ていただいたように、少しずつ斜めに歩いたりしながらまっすぐ歩けない状況であったということが分かります。このように、歩くだけでもふらついてしまう飲酒運転は、運転をする上で危険であるということが分かります。このような活動を通して、たくさんの人に広めていく活動も私たちは行っています。



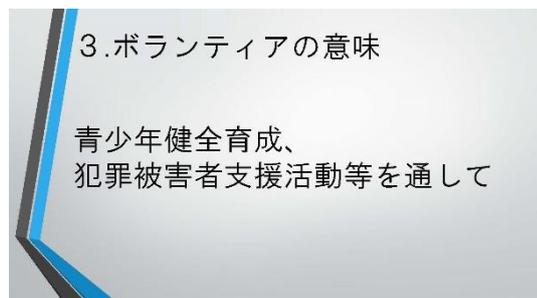
話は戻りますが、例年では対面での講習会を行っていましたが、コロナウイルスの流行により開催

が危惧されましたが、去年10月、オンラインでの実施が叶い、学生と警察の方がネットでつながりながら、交通安全講習を行いました。コロナ禍においてオンライン上で活動が行われたことは、対面でのボランティアができない私たちにとって、よい機会になりました。



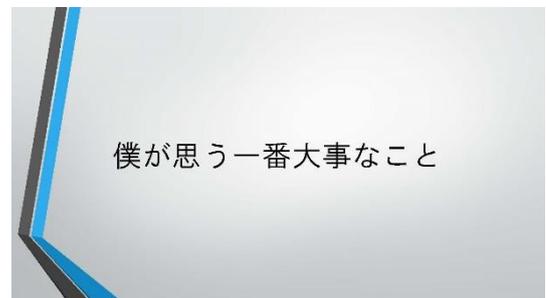
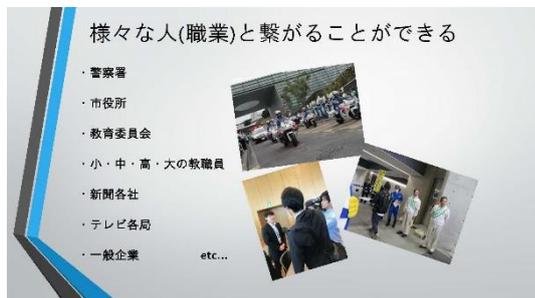
3つ目に紹介させていただく活動は、青色パトカーの運用です。今年に入り、青色回転灯装備車両、通称青パトを運用するようになりました。生活安全係主任の堤さんに本学で講習を行っていただき、青パト運用の準備をしました。そして今年8月に実施者証が届き、講習を受けたメンバーが青パトに乗って、担当区の見回りを行えるようになりました。活動範囲が広いので、ルートをいくつかに分けながら偏りがないようにし、幅広く見回り活動ができるように心掛けています。私たちが安全を心掛けて運用することにより、少しでも犯罪を抑制し、地域の方々に安心を与えられる存在になればと思います。

次に紹介するのは、特殊詐欺防止活動についてです。特殊詐欺では、高齢者を狙ったオレオレ詐欺や振り込め詐欺の被害も多く耳にしますが、大学生も例外ではありません。実際に大学生の被害も明らかになっています。啓発活動では、コロナ禍以前は駅前での呼びかけやビラ配りを中心に毎月のペースで行い、特殊詐欺の撲滅に尽力しました。大学近くの郵便局でも振り込め詐欺の被害を未然に防止した事例があり、間接的ですが少しでも役に立てたのではないかと考えています。



次の活動紹介では、「青少年健全育成、犯罪被害者支援活動を通して」について、活動の内容に触れていこうと思います。こちらの写真の左側は、私たちが主催する「命の授業」です。実際に岡山県の小学校に訪問した「心と命の教室」の写真です。講師を小学生の御家族を亡くされた遺族の方にお越し、講演を行っていただきました。講演後、班を作ってグループディスカッションを行い、爽志会メンバーが班長になり、小学生の意見を聞きました。ここで一番大切にしたいことは、意見を否定せず「そうだね。その通りだね」と肯定したことです。小学生の気づきを大切にしながら、私たちが命の大切さを伝えることができたと考えます。右側は、毎年本学を会場として行っている IPU フォーラムです。今までさまざまな遺族をお招きし、講演をしていただきました。この IPU フォーラムは、小・中・高・大学生を招待しています。私たちが犯罪被害者支援を通して、防犯の輪を広げる活動を行うのは、児童や生徒と年齢が近いからこそ、私たちが行う意味が大きい

と考えるからです。もし身近に同じ境遇の人がいた場合、警察が行っている相談窓口や民間支援団体、全国被害者ネットワークにつなぎ、被害者への接し方を広めるだけでなく、新たな被害者や加害者を作らない、防犯の意味を含んでいると考えます。



私たち爽志会では、警察や教員等たくさんの職業を希望する学生が集まっています。その中で私たち2人は小学校の教員を目指しています。今年行かせていただいた高校の教育実習先で、私たちが今まで取り組んできたボランティア活動が役に立つ場面がいくつかありました。それらを踏まえて、私たちの考える防犯とは、そしてボランティアとは何かについて考えを述べ、まとめに移らせていただこうと思います。

私は、このフォーラムに参加するに当たり、自分がボランティアする意味は何かと考えました。それは、この経験をお子たちに伝えることで、子供から大人へと防犯意識を高めると考えるからだと思います。そう考えるようになった背景には、今年9月に参加させていただいた高等学校での教育実習にあります。私は保健体育の教員として高校に教育実習に行きました。教育実習では保健の授業の際、交通安全に関する授業を取り扱いました。先ほど紹介した本学の学生を対象に行ったオンライン講習会を参考にしながら、授業づくりをさせていただきました。私はこの授業を通し、高校生に「交通事故は加害者にも被害者にもなり得る」というところを再確認してほしいとの願いを持って臨みました。授業前は飲酒ゴーグルの体験会やシートベルト未装着時の衝突映像など、高校生にとって少し重い授業になるのではないかと考えました。しかし、彼らは真剣に授業を聞き、授業後の感想では「交通意識が高まった」「家族がシートベルトしないときは自分たちが声を掛けるようにする」「運転免許を取ったときは、飲酒運転をしない」など、私が想像するより真剣に考えてくれました。この体験から、私は将来を担う子供たちの防犯意識を高めることは、結果的に、社会全体の防犯意識を高めることにつながるのではないかと考えました。先ほども申しあげましたが、私は大学卒業後、小学校の教員になりたいと考えています。大学4年間で経験し考えたことを、私が将来関わる子供たちに伝え、少しでも犯罪の少ない社会に貢献できたらと思います。

【発表者交代】次に私の気づきについて、話させていただこうと思います。私が教育実習で気づいたことは、教育とボランティア活動は、とても似ている部分が多いということです。なぜなら、理由は2つあります。1つ目は活動に終わりがなく、自分の判断でゴールを決めることができると思うからです。その中でどこまで介入していいのか、どこまでサポートするのかを考えることがとても必要となります。2つ目は、私も活動しながら元気をもらっている点です。教育実習の活動先でもボランティアの活動でも、こちらが逆に元気をもらう場面は多くあります。ボランティアの定義として見返りを求めないとされながらも、元気をもらいにいっている私があります。共に成長したり支えたりする姿は、どちらも似ていると思いますし、その姿が生まれるのもこういった気持ちが芽生えるからだと思います。これらの理由から、教育とボランティア活動は共通点が多いと感じまし

た。

まとめに入る前に、皆さんに質問があります。皆さんは活動を行う際、次のどちらのタイプでしょうか。①活動してから意味を後付けするタイプ、②反対に理由をつけてから活動するタイプ。いかがでしょうか。この2つは似ているようでとても大きなものだと思います。ただ単にボランティアがしたいのか、それともその活動を広め、誰かの役に立ちたいのか。これらによって活動の意味や内容の濃さは変わると思います。私たち爽志会は、常に後者の理由をつけてからの活動を心掛けています。ボランティアをしたことがない人が活動を先に行ってみて、後からきっかけとしてその活動に意味を持たせることはありだと思います。しかし、ボランティアを広めることを目的とした私たちは、意味を持たせてから活動を行う義務があると感じています。その考えに至った理由として、今私は大学のゼミで社会学について研究をしています。その中で「共感する心と行動するきっかけの関係」というテーマで考えを進めています。ボランティア活動もこの研究のテーマに当てはまると思います。ボランティアは自分たちでするのではなく、世の中に広めていかなければなりません。活動を知ってもらいボランティアの輪を広げたりするには、人々に共感してもらうことが必要となります。私たち爽志会は、自分たちだけが満足する活動ではなく、輪が広がる活動を追求しています。

まとめとして、私は皆さんに「共感」というキーワードを覚えて帰っていただきたいです。共感を得ることができれば、活動の意味は大きなものとなり、ボランティアの輪が広がったり、犯罪で悲しむ人が減っていくと信じています。私たちはこれからも、共感してもらえる活動を意識しながら歩んでいきます。御静聴ありがとうございました。



## 講評 【広島大学大学院人間社会科学研究科 教授 吉中 信人 氏】

吉中 環太平洋大学爽志会の塩村様、早崎様、どうもお疲れ様でした。大変素晴らしい御報告をいただきまして私も勉強になりました。感銘を受けました。輪が広がるボランティア、活動の共感を求めるという、単に自分がやればよいということだけではなくて、役割をしっかりと認識された上で、このボランティア活動を広げていくという志が伝わってまいりました。それと同時に皆さんの活動は、6部門の多岐にわたるそれぞれの防犯の活動を展開しておられて、きめの細かい活動されているんだなと思いました。とりわけ最近では特殊詐欺の問題とか、少子者保護の問題とか、従来の街頭犯罪以上のものが注目されています。私も大学に勤めておりますが、大学生の方自身も『いいアルバイトがあるよ』ということで、1日何時間で2万円もらえとかいうメールがどんどん来るんだ』といったところについても、おそらく皆さん意を致して活動しておられるのではないかと思います。施錠の呼びかけ、2ロックシステム、さまざまな方向からきめの細かい活動を行っておられるなと思いました。とりわけ、ボランティアと教育との共通点ということで、私も興味深く

拝聴させていただきました。私も教育に関わる者の1人ですけれども、教育も防犯もすぐにはなかなか結果が出ないかもしれない。しかし、輪を広げて息を長く活動していくことによって、きっとそれはあたかも漢方薬のようにじわじわ効いてくるんだと思います。地道な活動こそが実はそうした効果を生んでいくんだろうなと思います。ボランティア活動、とりわけ防犯ボランティアでは、目に見える効果やありがとうと感謝されることは、いつもいつもではないかもしれませんが、きっと皆さんの地道な活動が、輪を広げていって社会の中に浸透していくということを期待してまいりたいと思います。それから何よりも元気をもらえるんだ、これには何の報酬ももらえないのかと思われる方もあるかもしれませんが、人に喜んでもらうことや自分たち自身も元気をもらうところにやりがいを感じておられるところに、非常に素晴らしい活動をされているなと思いました。とりわけ防犯活動は、世代を超えて引き継いでいくということが大切ですので、今後も皆さんのますますの御活躍と防犯活動の展開を期待しております。私のコメントとしては、以上です。どうもお疲れ様でした。

## 八幡東学区防犯パトロール隊「イエローレモン隊」(広島県)

ただいま御紹介に預かりました、広島市八幡東学区防犯パトロール隊「イエローレモン隊」の橋本と森川です。どうぞよろしくお願いいたします。帽子をかぶってマスクをしていると怪しそうに見えるので、帽子を脱がせていただきます。

さて、私たちイエローレモン隊は、平成16年5月に「私たちの街は自分たちで守る」を合言葉に、見せる防犯を实践して挨拶と笑顔溢れる八幡東にしようと、スローガンを掲げてスタートいたしました。今年で18年目を迎え、現在の登録隊員数は約600名おります。16年頃の結成以前、平成12年当時、広島では暴走族の問題がありました。この対策で警察と協力しながら当時、八幡東おやじの会が夜コンビニや公園を中心にパトロールをしておりました。これがこの形成の最初の1つの母体にはなっていると思います。御承知のように平成13年6月に、大阪で池田小学校事件が発生し、その後、埼玉県をはじめ、全国で子供をターゲットにした事件が頻発するというようになりました。実は、我が八幡東小学校も、平成15年5月に不審者侵入事件が発生し、テレビ新聞などマスコミが殺到する事態となりました。この事件をきっかけにPTA、青少年健全育成協議会を中心として、各地域団体と約1年協議を重ねて、このイエローレモン隊を結成いたしました。特色といたしましては、青少年健全育成協議会が中心となって、ピラミッド型の組織ではなくて円をイメージした組織にして、個人の有志がみずから手を挙げて登録し自主的に参加するという形を取りました。そこから紆余曲折がありましたが、現在に至っております。



### イエローレモン隊と街づくり



八幡東小学校区の紹介  
児童数・645名  
世帯数・473世帯

人口・約9195人  
世帯数・約4051世帯  
11町内会

我々は、パトロールだけが目的ではなく、イエローレモン隊をとおして、八幡東学区の安全安心なまちづくりを目指して行動しております。これが八幡東小学校区の航空写真の図でございます。見ていただいたように上が北になりまして、下が南です。ここの真ん中に見えにくいでしょうけども、川が流れております。端っこにも川が流れておりまして、2本の川がこの学校区にあります。児童数が645名、世帯数が約4000世帯、人口が約9000人おりまして、町内会が11町内会という地域でございます。



先ほど申しあげました円のイメージというのは、中心に青少年健全育成連絡協議会がありまして、その中に防犯パトロールイエローレモン隊があります。行事として子供の居場所づくりということで、三世代交流事業、ユーユーネットというものを今やっております。この22団体の中には、皆さんのところにもある社会福祉協議会とか、連合町内会、体育協会、民生委員児童委員協会、親父の会、母親クラブ、保護司会、補導員、青少年指導員、中学校、そのPTA、小学校、保育園、公民館、子供会、公衆衛生推進協議会という各団体が一緒になって、これを組織しております。

これはレモン隊グッズと書いておりますけれども、今は結構役所の方からグリーンベストなどいろんな防犯グッズが配給されていますが、平成16年当時は無かったですね。それで我々はまず色のイメージと名前を考えまして、イエローレモン隊、何のこっちゃ？という感じから始まったんですけども、当時の教頭先生の「子供たちはカタカナと果物の名前をつけると親しみやすいよ」というヒントから、このイエローレモン隊というものを作りました。色はレモンですから黄色ということで目立つ色を着て、とにかく地域をこの黄色でいっぱいにして防犯意識を高めていこうということで始めました。これがさっきかぶっていたキャップですね。これは車に貼るマグネットのプレートです。これは自転車に付ける防犯プレートです。ちっちゃいのがいっぱいありますけれどもこれはシールになっていまして、車やバイクとかいろいろなところに好きに貼れる。これがさっき持って出ましたトートバックですね。これを女性陣の方が買い物や日常に使っていただきまして、とにかくこの街での防犯意識を高めていこうと。それとここに毛糸のキャップがあります。これは冬の寒い時、土手が通学路になっていきますので、風が吹くと寒いんですね。ちょっとでも暖まってもらおうと、黄色のキャップを用意しました。それと今は使われていませんけれども、車のサンバイザーです。



当初スタートは、朝の部隊、昼の部隊、夜の部隊と、ワンワンパトロールの部隊ということで始めました。これが夜の部隊の写真です。これは日常、御婦人方がさっきのプレートをつけて、散歩なり買い物に行かれています。これがワンワンパトロールですけれども「犬の散歩の時にレモン隊の服を着て歩いてくださいよ」という形でスタートしました。

これが「まちづくり自販機」の設置ということで、どこも一緒でしょうけれども、やはり防犯団体にはお金が必要です。自主財源確保ということで飲料メーカーさんと提携しまして、自動販売機を設置させていただきました。これをまちづくり自販機という名前にして、例えばこの自販機で150円のお茶を買うと、10%の15円がその場でイエローレモン隊に寄付されるという仕組みを作りました。ですから、パトロールとかの行事に参加しなくても、この自販機でジュースやお茶を買えば、必然的にイエローレモン隊の活動をしているというような形の意識づけもしております。今、4台設置しております。



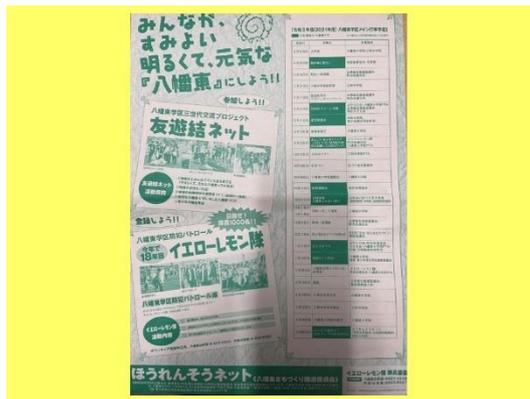
これが日常の様子です。子供たちの登下校に寄り添って歩いております。これもそうですね。こうやって川の横の土手が通学路になっているのが多い学区でございます。



朝にこの方々は毎日決まったポイントに立っていただいて、子供たちの見守りをしています。その時に通学している子供たちと一緒に撮った写真です。

これは夜のパトロールの部隊ですね。ゴミ袋を手に火箸を持って、たばこの吸い殻とかゴミを拾いながらパトロールをしております。

#### 4. 八幡ふれあい隊との連携



これは「八幡ふれあい隊との連携」と書いてありますが、隣の町が八幡という学区です。その八幡ふれあい隊というのが防犯パトロール隊です。そこと一緒に年に1回1月に、警察の生活安全課の方に来ていただき研修会をやって、そのあとに合同のパトロールを一緒にやっております。これが1年間の行事予定を書いたものです。4月から3月までの三世代交流事業の行事を印刷したものを4月に5000部印刷して、小学校、公民館、新聞の折り込みで地域の皆さんに伝えております。

#### 八幡東あんしんフェアの開催



地域安全マップの発表

夜の部隊員・決意表明

児童代表から感謝の言葉

#### 「あんしんフェア」では防犯のイベントも



避難訓練

炊き出し訓練

これは「八幡東安心フェア」というものをしておりまして、安心フェアですから、防犯防災こういうのをミックスした行事にしております。夜の部隊の決意表明や地域安全マップの発表ということで、4年生が毎年安全マップを作ってこの場で発表しております。それとありがたいことに児童代表が我々に感謝の言葉を申してくれております。これも安心フェアで防犯ですが、まずしょっぱなに町内会が中心になって避難訓練を行います。各地域から避難訓練で集まってきて、決起大会に行って、その時に炊き出し訓練もやっております。

#### イエローレモン隊決起大会 & 子ども防災フェア



#### 八幡東小学校児童との安全マップ作り（4年生）



これがマップの発表の様子です。ここにあるように「こども防災フェア」ということで、子供たちを主体にした防災訓練にしております。中でいろんなコーナーを設けて、子供たちがその時に防災の勉強ができるような仕組みにして、3つの行事をいっぺんにまとめて1日でっております。

これはさっきの安全マップ作りをするのに地域の民生児童委員の方を中心にして地域の方が4年生の子供たちと一緒に回って危険箇所のチェックをして、それを安全マップに落とし込んでおります。



これが1つのメイン行事です。

石内川クリーン作戦ということで、真ん中に流れている川の掃除をします。この川は、平常は子供たちが入ってはいけないことになっておるんですが、これを堂々と入って楽しめるようにクリーン作戦と銘打って、子供たちが川の中に入ってゴミを集めます。楽しみながらいわゆる清掃ボランティアをするという体験活動でございます。こうやってお父さんと一緒に入って拾って、結構ゴミが出るんですね。当初はバイクとか自転車とかが4、5台よりもっと多かったです。それを引っ張り上げてやっておりました。最近はずっと自転車が落ちていくくらいで、あまり落ちていない状況になっております。これは親父たちが焼きそばを焼いているところです。



これもそうですね。こうやって子供たちは楽しく、非常にいい笑顔で清掃ボランティアをやってくれています。これもそうですね。本当に楽しんでおります。



焼きそばを作ってくれて食べているところです。お母さん方も手伝って、先生も一緒にやっております。これも焼きそばですね。ここは焼肉です。もう20年続けているんですけども、20年前は20～30人ぐらいで始めました。その時は焼き肉で十分だったんですけどもだんだん増えてきて、100人を超えるぐらいから肉の量が半端じゃなくなりました。これはまずいということで、先に焼きそばを食べさせて少し腹を満たせて、それから肉を出してバーベキュー大会にするという工夫をやっていました。20年続けているということは、この当時小学校5年生6年生の子が、今は30を過ぎています。その子たちの子供が小学校に入学するようになってきているんですね。これがあと20年経つと、もうぐるっと回転するんですね。そうするとやはり石内川にしても、そこにビニール袋のポイ捨てとかゴミのポイ捨てが、自然にこの地区も少なくなっていくと想像しながら、楽しんでやっております。

夏が終わって9月に入りまして、「星空映画会」ということで公民館と共同で開催をしております。星空映画会の面白いところは、小学校のグラウンドで子供たちが楽しみながらやってるんですけど、この子供たちはもう小学校の中学年・高学年です。いつも幼児に見られる映画を選んでいきますので、地域の若いお父さんお母さんが、未就学児童、4、5歳の子を連れて見に来るんですね。ですから、大体1000人ぐらいが来ます。



これが若いお父さんお母さんの地域へのデビューの場という雰囲気になっております。そこで、早くからイエローレモン隊に親んでもらうように、みんなこれを着てやっております。これもそ

うです。



9月が終わりましたら今度10月に入りまして「八幡東ふれあい祭り」ということで、今はこれが地域の一大イベントに育ってきております。ステージ発表、バザーを主体にやっております。これがバザーの様子です。仕掛けとして、1・2時間目が授業参観、10時半からスタートしてその保護者や地域の方が一斉に行事に入ってきます。公民館、地域のいろんな行事を一緒にした一大祭りとしております。



約3000~3500人ぐらい当日来ます。やはりその中でこのグッズをちゃんと見せるように展示して、ここでこれをくれという人もおられます。そういった形でどんどんアピールをしております。

これが11月22日に行われておる、八幡東小学校の追悼集会です。平成16年11月22日に「木下あいりちゃん事件」が広島で起きました。広島市安芸区矢野西小学校で起きた事件でございます。小学1年生の木下あいりちゃんが、下校中にペルー人の男に声をかけられて誘拐されて殺害されるという悲惨な事件が起きました。その翌年から毎年、市内の各小学校では、11月22日前後に追悼の安全朝会が行われております。これがその様子でございます。



秋が過ぎまして年末になると、年末合同パトロールもやっております。その様子です。これがさつきも出ていた青色パトロールです。幟を持ってみんなで回ります。



こうやって子供、お母さんも一緒にやってくれております。

年が変わって「とんど」をやっております。これは組織だってやらないで自主的に集まって、その日の朝に近くの竹を切って組んで点火してやるもので、これも一大イベントになっております。



これもそうです。地域の消防団の方が一応予防のために来て、一緒にやってくれています。

最後3月に、「SUN・サン・さん遊びの広場」ということで、社会福祉協議会と体育協会が主体となって、子供たちに昔遊びを体験してもらおうということで、三世代交流事業を行っております。



先ほど言ったまちづくり自販機は、自主財源確保ということで設置したことによって、平成20年10月に自主財源確保の方法が評価されて、文部科学省の推薦でイエローレモン隊が内閣総理大臣表彰を受賞いたしました。総理大臣官邸に行かせていただきました。



これは体育館での集合写真ですけれども「学校に泊まろう」というのを夏にやっています、広島工業大学の学生の協力を得ながらやっています。やっぱり我々おじさんよりも、若い男の子たちを小学生の5、6年の女の子は喜ぶんですね。非常に盛り上がって楽しくやっております。



こういった行事をやりながら、とにかくみんなが住みよい明るくて元気な八幡東であるために、三世代交流事業の「友・遊・結ネット」活動をこれからも続けていって、やはり当初の目標でありましたイエローレモン隊、隊員登録1000人を目指して頑張ってもらいたいと思っております。

最後に、課題と目標としてまとめさせていただきます。やはりもっともっと裾野を拡大して、隊員登録1000人を目指しながら、時代に合ったしっかりとした組織作りの必要性を感じております。そのためにも今一度原点に戻って、子供たちを持つ現役親世代の関心を高めて隊員登録をしていただき、地域全体で子供たちを見守っていきたいと思っております。これからも各世代で「できることを、できる人が、できるときに」の精神で見せる防犯をみんなで実践して、地域全体に防犯バリアを張り巡らせたいと思っております。以上でございます。御静聴ありがとうございました。

## 講 評

**吉中** 八幡東学区防犯パトロール隊イエローレモン隊の橋本様、森川様、どうも御報告ありがとうございました。大変素晴らしい活動されているなど改めて思いました。私は昔、広島県警と共同研究で「減らそう犯罪」というのを一緒にやっておりましたが、その時に多分イエローレモン隊の皆様がよくお越しになられていて、もうその頃から多分お付き合いなんじゃないかなと思います。その時に、なぜ他のグループ活動は緑だけれども黄色なんだろうかということで、御質問させていただいたことがありました。今日はそこをまた思い出しました。当時は本当に先駆的な取組で、早くから活動されているということで、もう18年ですか。本当に長く地域のために活動されていると

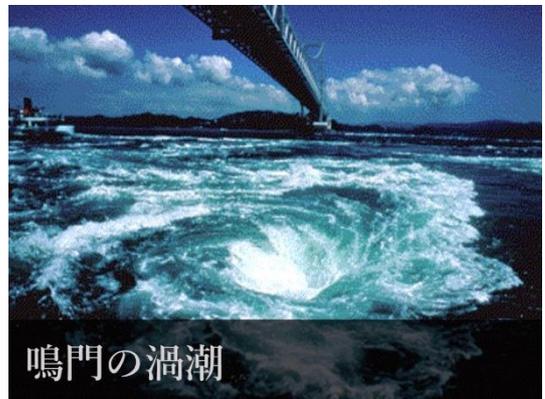
ということで、私も本当に広島県民として誇らしく思いますし、ありがたいなと思います。川のある町で、私も個人的には八幡川というお酒が非常に大好きで、広島以外の方もぜひ御賞味いただければと思います。地域全体は、地域が明るくて元気な八幡東であるということから、防犯のための防犯というよりは、むしろ地域を明るくて楽しい場所にしていこう、活性化していこうという試みの中で、もう18年も続けてこられました。最初は20人ぐらいとおっしゃったと思うんですけども、今はもう600人ですか。

**発表者** そうです。最初のイエローレモン隊は大体150人からスタートしました。

**吉中** そうですね。失礼しました。もう今は600人。それから最後の1000人を目指して裾野を拡大していくということで、本当に頼もしく思って聞かせていただきました。その中でも特に、この活動を長く続けていくということが、この防犯ボランティア活動の大きなテーマですけれども、誰もが「できるときに、できることを、やれる内容で」ということ、これがやはり1つの秘訣なのかなと聞かせていただきました。それと同時に、レモン隊をピラミッド型ではない円をイメージした組織として考えていく、安全安心のまちづくりをしていくんだ、そして子供たちの居場所づくりをしていくという中で、世代を超えて、今日もお話を伺って感銘を受けましたけども、見ていた子供たちが大きくなって今度は親の世代になってそしてまた参加してもらえるという、本当に理想的な世代間の引き継ぎが行われている実例で、頼もしく聞かせていただきました。それから何と云ってもこの活動を日常の活動、日常の散歩や地域の活動と結びつけて無理のない活動にされていると、これはやっぱり持続可能性をもたらしているんだなということもあります。今日の御報告を通じて感じさせていただいたのは、何と云っても楽しんでされていること。いろんな年中行事の中で、子供たちと一緒に世代を超えて楽しんだ活動をされているということ。焼肉パーティーで焼きそばを先に食べさせるというのも、またいいアイデアだと思います。本当にいろんなアイデアを出す土壌があるということが、何よりもイエローレモン隊さんの活動を支えているんだなと思いました。飲料メーカーさんと提携しての自主財源作りも、財源も非常に大きな課題ですけれども、いち早くそこに取り組んでおられるということが、他の防犯活動においても非常に参考になるところかなと思いました。こういう活動をますます続けていただいて、三世代、四世代という形で裾野を広げていって防犯バリアを築いていくんだということで、ぜひ今後とも活動を継続して頑張ってくださいと思います。どうも御報告ありがとうございました。

## 北島町地域安全推進会（徳島県）

徳島県の北島町地域安全推進会の発表をさせていただきます。私は会長の江富、そして隣が副会長の松島です。せっかくですので、私たちが住んでいる徳島の自慢を簡単に紹介いたします。



この写真の中に中央に写っているのが、眉山という山です。どの方向から眺めても眉の形に見えるので、眉の山と書いてビザンと呼ばれるようになったそうです。徳島市のシンボルとして見られています。次は鳴門の渦潮です。瀬戸内海と紀伊水道をつなぐ鳴門海峡は、潮の緩慢により速いときには時速 20km もの急流となり、そこに大小無数の渦が発生します。渦は直径 20m にもなることがあります、渦と海峡にかかる大鳴門橋が調和して、雄大な景色を見ることができます。



次は阿波踊りです。阿波踊りは 1587 年に阿波藩主、蜂須賀家政が徳島城を築城し、落成の祝賀行事で人々が踊ったのが起源といわれています。現在では毎年 8 月 12 日～15 日の踊り期間中に、全国から 130 万人もの見物客が訪れ、市中が阿波踊り一色に染まります。

次は阿波人形浄瑠璃です。阿波人形浄瑠璃は各地の神社に作られた農村舞台で、祭礼として上演

されてきましたが、明治時代に独自の演出法が生まれ、西日本の代表的な人形浄瑠璃に発展しました。巡礼お鶴と母お弓との悲哀を書いた「傾城阿波鳴門」が有名で、徳島市川内町にある阿波十郎兵衛屋敷の舞台でも上演されて、観光客の涙を誘っています。



最後は「うだつの町並み」です。うだつは隣の屋根との境に作られた、小屋根付きの防火壁のことですが、「うだつが上がらない」という言葉はこれから来ています。徳島県西部の脇町には、このような白壁に木瓦葺の家屋が立ち並び、うだつの町並みとして大切に保存されています。私たちの住む北島町については、あとで紹介させていただきます。

それでは発表者が変わり、本題の発表に移ります。はじめに北島町地域安全推進会の概要について説明させていただきます。

## 目次

- ・ 北島町地域安全推進会の概要 01
- ・ 北島町地域安全推進会の活動内容 02
- ・ 効果的防犯活動の実施 03
- ・ 今後の課題 04

## 01 北島町地域安全推進会の概要

### 5 管内情勢

総面積 8.74平方キロメートル  
世帯数 10,016件  
人口 23,380人

犯罪は窃盗が多く割合を占める

四国内最高人口密度

若者が多い

店舗充実



警察や店舗と連携し  
各種防犯活動を実施

## 02 北島町地域安全推進会の活動内容

### 2 子どもの安全を守る活動

青色回転灯装備車での防犯パトロール活動

2009年

防犯パトロール活動開始

2021年

「宝くじ号」の贈呈

現在

毎週月曜日の午後3時より  
回数を増やしパトロール中!



私たちが北島町地域安全推進会の活動を開始したのは、平成6年4月1日のことで、活動地域は徳島県板野郡北島町です。現在会員数は18名で平均年齢は67歳となっています。北島町地域安全推進会は、北島町に居住する住民で組織されており、徳島板野警察署の職員と緻密な連携を図り、警察職員と本会会員の連帯意識を高め、交通事故や犯罪を無くし明るい地域社会をつくることを目的としています。その目的のために、警察職員と連絡協調体制を確立し、キャンペーンや防犯パトロールなどを通して、地域住民に対する防犯意識の普及高揚や犯罪の未然防止、暴力の追放、青少年の非行防止と健全育成の推進に携わっています。北島町地域安全推進会では、他ではやっていないオリジナリティのあるアイデアを考え活動しています。詳しい活動内容については後ほど紹介いたします。

次に、活動地域と管内の情勢についてです。北島町は徳島県東部海岸の北半分に位置し、吉野川が紀伊水道に注ぐ河口に生じた三角州のほぼ中央にあり、山がなく周囲を川に囲まれたひょうたん型の島になっています。総面積は8.74 km<sup>2</sup>、世帯数は1万16世帯、人口は2万3380人であり、徳

島県の自治体で最も面積が小さく、また四国地方で最も人口密度の高い町村でもあります。住民の平均年齢は46.6歳と、他の自治体と比べると若者が多いといえます。昔は企業城下町として栄えてきた北島町ですが、現在は徳島市のベッドタウンとして発展しています。町内には映画館などが入った大型ショッピングモールがあるほか、スーパーやドラッグストア、飲食店などが充実しており、とても住みやすく活気がある地域です。令和元年中の北島町における刑法犯罪認知件数は93件となっており、県下でも犯罪率は低くありません。93件の内70件の窃盗があり、ショッピングモールや店舗が充実しているため、窃盗が多くなっているようです。このような犯罪から地域を守るため、警察やショッピングモールなどと連携し、各種の防犯活動を行っております。

## 02 北島町地域安全推進会の活動内容

### 2 子どもの安全を守る活動

子ども110番の家活動

全国に先駆け活動を提唱

定期的な点検活動

令和元年看板を新デザインに



## 02 北島町地域安全推進会の活動内容

### 3 各種犯罪の防止活動

盗難被害防止活動

自転車盗の原因は鍵のかけ忘れ

学生の被害者が多い



新学期に併せ中学校で  
自転車盗難防止キャンペーン

それでは、実際にやっている活動の様子を見ていただくことにします。まず、子供の安全を守る活動です。北島町地域安全推進会では、平成21年から青色回転灯装備車での防犯パトロール活動を開始し、現在も継続して小中学校の下校時の見守り活動や防犯パトロール活動を行い、地域の安全を図っています。また、令和3年3月4日には、青色回転灯装備車宝くじ番号が贈呈され、贈呈式及び出発式が行われました。このことを受け、月2回行っていたパトロール活動を毎週月曜日に増やし、より一層地域の防犯活動を活発化しました。

続いて、子供の犯罪被害防止対策についてです。北島町地域安全推進会は全国に先駆けて、子供110当番の家活動を提唱し、「子供110番緊急避難協力の家」の名称で子供の保護対策の充実に努めています。また、令和元年には看板が一新され、より子供の目に留まりやすいデザインになりました。

次は、その他の犯罪防止活動を紹介します。第1は盗難被害の防止活動です。まずは自転車盗です。被害のほとんどは鍵をかけていないことが原因です。そこで、新学期の始まりに合わせて管内の学校を訪問し、自転車の盗難防止キャンペーンを行って、被害者になる割合が高い学生たちに鍵かけの啓発活動を行いました。

## 02 北島町地域安全推進会の活動内容

### 3 各種犯罪の防止活動

河川・公園等危険箇所を点検



看板の設置活動を実施

## 02 北島町地域安全推進会の活動内容

### 3 各種犯罪の防止活動

夏祭り補導・年末夜間パトロール



パトロール中!

また、北島町は周りを河川で囲まれているため、水難事故を防止するために、危険箇所の点検及び看板の設置活動を行っています。夏にはひょうたん夏祭りが開催されます。昼間はわんぱく相撲やカラオケ大会が開催され、子供たちに人気の木工教室や宝さがし等も行われます。公園には出店が立ち並び、夜には花火大会が行われ北島町の空を彩ります。毎年多くの人でにぎわっていますが、楽しい雰囲気は浮かれ、若者が飲酒喫煙をするなど問題行動を起こすことがあります。非行の芽をそのままにしないためにも、警察と連携し夏祭り補導を実施しています。また、年末には夜間パトロールを行っています。

## 03 効果的防犯活動の実施

### 1 誘拐防止紙芝居「5つの約束」



## 02 北島町地域安全推進会の活動内容

### 1 誘拐防止紙芝居「5つの約束」



次は効果的防犯活動の一環として、北島町地域安全推進会が行っているユニークな活動を3つご紹介したいと思います。まず、誘拐防止のための紙芝居「5つの約束」です。この紙芝居は平成9年に北島町地域安全推進会と徳島板野署が協力して作成したもので、不審者に誘拐されそうになった少年が、110番の家に逃げ込むという筋書きになっています。約24年間子供たちが楽しく防犯対策を学べるように、地元の幼稚園や小学校等で上演を続けています。しかし、昨今は新型コロナウイルスの影響により、保育所や幼稚園での誘拐防止教室の開催ができない状況が続きました。そこで、コロナ禍においても子供たちへの誘拐防止の教育をするにはどうすればよいか署所在地勤務員と話し合い、今年7月に「5つの約束」をDVD化し町内小学校に配布するとともに、夏休み期間中にケーブルテレビを通じて放映し、子供たちの防犯意識を高めることにしました。

## 03 効果的防犯活動の実施

### 2 誘拐防止の歌「5つの約束守ろうよ」



## 03 効果的防犯活動の実施

### 2 誘拐防止の歌「5つの約束守ろうよ」



次に誘拐防止の歌「5つの約束守ろうよ」です。これは、全国防犯協会連合会が考案した誘拐被害に遭わないためのポイントである「5つの約束」を子供たちに覚えてもらおうということで、北島町地域安全推進会会員が協力し合って作成した歌です。全国でも初の試みで、軽快なテンポで覚えやすく親しみやすい曲調となっております。CD化もされており、町内外を問わず多くの人に防犯活動の輪を広げています。

北島町内の幼稚園や保育所で行った誘拐防止教室では、私たちが子供たちと一緒に歌い、被害に遭わないための5つのポイントを、園児らにわかりやすく伝えました。今日はこの「5つの約束を守ろうよ」を実際に聞いていただきたいと思います。この曲は一緒に子供たちが歌いやすいように、合の手が入っています。

## 03 効果的防犯活動の実施

### 3 振り込め詐欺防止音頭～もう私は騙されない～

振り込め詐欺撲滅のための予防活動の推進



## 03 効果的防犯活動の実施

### 3 振り込め詐欺防止音頭～もう私は騙されない～

落ち着いて対応を

直ぐには振り込まない

一人で判断しない

誰かに相談を

必ず事実確認を

振り込め詐欺防止の5つのポイントが歌詞に盛り込まれている



最後に、振り込め詐欺の防止撲滅活動です。私たち会員もまず、代表的な振り込め詐欺の手口や発生状況などを勉強しました。そして、青色パトカーを始動させて管内の銀行前でキャンペーンを行ったり、ATM集中警戒日にパトロールを実施して被害防止を図りました。これは振り込め詐欺防止音頭「もう私はだまされない」です。この音頭は多発している振り込め詐欺被害を何とか食い止められないかとの願いで、平成19年に北島町地域安全推進会と当時の徳島北警察署員が協力して、作詞作曲を行いました。では、ここで振り込み詐欺防止音頭「もう私はだまされない」を実際に聞いていただきたいと思います。

この歌には詐欺の4つの手口や、被害に遭わない5つのポイントをうまく盛り込んでいて、とても歌いやすいメロディーなので、キャンペーンなどで流すと、高齢者の方もすぐに歌ってくれて好評を得ています。

## 04 今後の課題



最後に、北島町地域安全推進会の今後の課題についてです。現在北島町地域安全推進会は、会員の平均年齢が67歳で、かなり高齢化してきました。活力のある若い世代の参加を促し、これまで以上に活動を盛り上げていく必要があると考えています。そのため私たちの活動を積極的に広報し、地元のニュースや新聞に取り上げてもらい、私たちの活動を知ってもらうことで若い世代の仲間を増やしていきたいと思っております。また、私たちの活動を広報することが、地域の皆さんの防犯意識の高揚につながり、私たちと一緒に安全で安心なまちづくりに取り組むことができると思っています。

以上が北島町地域安全推進会の活動発表です。ご静聴ありがとうございました。

## 講 評

吉中 北島町地域安全推進会の江富様、松島様、お疲れ様でございました。どうも御報告ありがとうございます。何といても歌を上手に活用されて、ほんとに素晴らしいと思いました。私も日々犯罪予防活動、予防論というものを研究していますが、大切なことは地域の実情に合った活動をされるということです。例えば、東京で行われているものが必ず全国に通用するとも限りませんし、また逆もそうです。北島町の地域の特徴に合わせた上手な活動、ユニークな活動をされているなと思いました。紙芝居も素敵だなと思います。これは日々忘れられてしまいそうなメディアですけれども、ぜひ続けていっていただいて、後世につなげていってもらえればと思います。それから、誘拐防止の歌、振り込め詐欺防止の音頭、これらも世代に合った歌を作っておられて、CD化をされたりDVD化もされているということで、本当にユニークでオリジナリティ溢れる活動をされているなと思いました。祭りもぜひ続けていっていただいて、若者の飲酒や喫煙等の問題もあると思いますけれども、地元の警察とも協力しながらぜひ活性化された地域づくりをしていっていただくということが、今後の活動にも重要なのかなと思います。それと同時に、広報活動を続けていかれるということで、本当に頼もしく聞かせていただきました。今後ともぜひ活動を展開して続けていっていただきたいと思います。どうもお疲れ様でした。

## ボランティア団体 マサイ（高知県）

こんにちは。ゆるキャラで日本一にらせていただいた「しんじょう君」のふるさと、高知県須崎市からやってまいりました、マサイの戸田です。池田です。よろしくお願ひします。今日は「子供が笑顔のまちづくり」と題して報告をさせていただきますと思います。



### 中国・四国ブロック 防犯ボランティアフォーラム

高知県 ボランティア団体 マサイ

2021年11月13日

### 子どもが笑顔のまちづくり



「マサイ」ってわかりませんよね。ボランティア団体でやっていたら「マサイってアフリカとつながりがあるんですか？」という話もされるんですけど、その辺の誕生秘話をお話させていただければと思います。先ほど、環太平洋大学の爽志会のお二人がこれから教員をなさっていただけるということで、退職して10年目を迎える僕にとっては非常に心強いなあと感じています。自分自身も教師をやらせていただいて、1999年に須崎の中心地にある須崎中学校へ教頭として赴任をさせていただきました。思い出すのはバイクの窃盗、暴走、暴力事件等で、随分地域の方々や警察にもお世話をおかけしたことです。逆にいえば、エネルギーを持て余していたということになるろうかと思ひます。よく学校でも卒業生がかつ歩してくれました。よく見ていますと、子供たちは地域に居場所が無いん違うんか、だから居場所を求めて学校に来てかつ歩する、後輩たちを呼び出して…と考へていくと、非常に寂しい子供たちと違うんかな、というようなことで、やっぱり子供たちの居場所をどうにか作りたいという願ひの中で、実はPTAや心ある地域の方々为学校応援隊として多くの力を貸していただきました。

子供中心にしたネットワークを地域で作ってほしい、そんなこと夢見ながら、例えば僕の学校のグラウンドを使いながら、保育祭りの駐車場で満杯になる、翌週にはJA祭りで運動場が満杯になるが、中学校の文化祭だけが何か細々とやっている。この地域の力をどうにかお借りしたいということで、保育祭りやJA祭りとタイアップをしたイベントをやりました。一番大きい時には3000人

### マサイ族誕生



ぐらいの人が学校に集まって、子供たちとつながっていくということをしていただきました。そうした地域の方々、PTAの方々に応援隊という形で、さまざまに学校を支援していただきました。僕が教頭を3年やって校長に昇任させていただいた2002年に組織化をして、ずっと応援をしていただきました。先ほど挨拶していただいた池田さんも、2004年ぐらいからずっと挨拶運動を仲間と一緒に続けていただきました。その間、僕は市内の別の学校へ異動していったんですけど、その間もずっと須崎の子供たちをしっかりと見守っていただいた経過があります。



僕は2011年3月31日をもって退職の機会をいただきました。その1週間ぐらい前に、その当と一緒にやっていたPTAのメンバーたちが、僕の慰労会をしてくれました。やっとこれで解放されるんかなあというときに、僕に赤いちゃんちゃんこの代わりに赤いジャンパーをいただきました。

「先生、後ろを見てくれ」ということで後ろを見させていただいたら「マサイ族村長」なる文字が目に入りました。実は、僕の名前はトダマサイといいます。「個人的な名前を変えてくれ」と村長みずから言ったんですけど、誰も取り合ってくれる人はいなくて、未だこの名前を使わせてもらっています。2011年の3月にこのジャンパーをいただいて、いままでお世話になった地域の方々に、今度は逆に地域の側から応援をしようということではないかなと思って組織づくりを考えました。

やっぱり事務所が要るんちがうかということで、事務所を建てるかという話もしてくれました、仲間内に大工さんの方もいらっしゃったので。しかし、なかなか叶わずやっっていく中で、僕の応援隊の隊長が居酒屋を経営していて、よく飲みに行ったんですけど、その中二階がちょうど具合がいいん違うかということで、おやじさんと交渉してこの部屋を「マサイ族」の事務所として使わせてもらうことになりました。この「マサイ族」の看板も、うちのメンバーが描いてく



れ、これはよく柔道場とかにある立て札、木札ですが、会員はこういうように名前が入って、これもメンバーの大工さんが考えてくれてこういうことをしています。

大体場所が居酒屋の2階で事務所がある、マサイ族の大体の意味はおわかりいただけだと思うんですけど、これを立ち上げた時に、司馬遼太郎の「龍馬が行く」という小説があるんですけど、じゃマサイ族は一体どこに行けばいいのかということを考え出してもらった中で、先ほど申し上げましたマサイ族の名前は変えられなければ、アフリカのこゝろに「1人の子供を育てるには、村中の大

人の力が必要」という言葉があるそうなのですが、これを頂いてここの村の憲章として掲げさせてもらうことにしました。

## マサイ族どこへ行く



「一人の子どもを

育てるには、



村中の大人の力が必要」

「我々マサイ族は『1人の子供を育てるには、村中の大人の力が必要』というアフリカのことわざに学び、大人のつながりを広めるとともに深化を図り、子供が笑顔のまちづくりを推進します」この憲章を掲げて、子供が笑顔になるためやったら何でもやっ払いこうということで、取り組みを進めていきました。皆さんがいろいろ発表したような定期的なものはありませんが「できるときに、できることを、楽しんで」ということをモットーに、歩みを続けています。

を推進します。」

「子どもが笑顔のまちづくり」

広めるとともに深化を図り、

諺に学び、大人のつながりを

の力が必要」というアフリカの

どもを育てるには村中の大人

「我々マサイ族は、「一人の子

マサイ村憲章



これは小学校の池の清掃を依頼されてしたところです。ここは中学校の築山の掃除です。これはある校長先生が来られて「先生、本箱を教育委員会に頼んだけど『60万も予算は出せん』ということで、どうにかありませんか？」ということで仲間の大工さんに協力いただいて作ることができました。これは教育委員会から筋違いだと思んですけど、「中学校の下駄箱が古くなったから修繕してくれないか」という注文を受けて、見積もりしたら100万ぐらいの予算が出てきて困ったそうで、僕のほうに注文があって作ったものです。子供たちにできることであれば何でも応援をしていこうというのが、僕たちの立ち位置です。



実は、先ほど「子供たちの荒れ」ということを言いましたが、荒れる子はいるんですけど、表面的に出せない子供もいるんです。僕の考え方になった「否定のシャワー」、やっぱり荒れた子供たちを「頑張っているか？」とかいう肯定的な評価ではなくて「あの子は、あの家は…」というマイナスのレッテルを貼って子供たちを見ていくという雰囲気の中で、そうではない文化に変えていこうと。やっぱりみんな大事な宝物やという形で、愛のシャワーの降り注ぐ校区を作っていきたいというようなことを夢見ながら、いろいろ発想を変えてやっていったように思います。

## 非行に走らせる4つの“ゼロ”

①居場所がない

②自尊感情がない

③人生の目標

④他者からの必要感



## 愛のシャワー



1997年に全国を震撼させた、神戸の須磨区で中学生が小学校の子供の首を切って殺害という事件がありました。それに関わった判事さんの言葉を借りれば「そういう非行に走る子供達には、4つのゼロがある。居場所が無い、自尊感情が無い、人生の目標が無い、他者からの必要感が無い」。僕が須崎中学校に赴任した時にかっ歩した卒業生や、バイクで暴走している子供たちそのものではないのかということで、やっぱり地域ぐるみで「愛のシャワー運動」、声掛け、笑顔の対応を、多く助けていただいでように思います。

多くの人から一方的でもいいから地域みんなが愛を注いでいく。そういうことが積み重なれば、子供たちはしっかり育てられるのではないかなと考えて、できるだけ多くの人声掛けをするようなネットワークで運動を作ってきました。



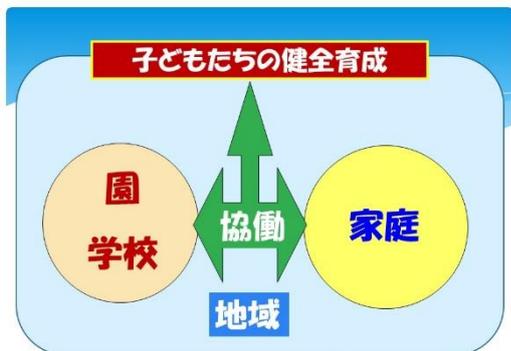
「愛の貯金」を受けた子供たちは、けばけばしいあの姿がだいぶ薄れて来たように思います。先ほども言いましたが、いろいろ挨拶運動とかおにぎり配布とか、先ほど言った「できるときに、できることを、楽しんで」ということで、思いついたりいろんな意見が出たときに取組を進めてきています。

### 新聞報道されました

- 2013年7月  
地元中学校で9年間、「朝のあいさつ活動」
- 2014年11月  
登校して来る小学生児童に手作りおにぎりを配布
- 2015年3月  
休日の学校で「あい愛食堂」を開催



本当に格差が広がる中で、やはり厳しい家庭の子供たちに関わる、温かく見守ることが非常に薄れてきている中で、僕たちの視点は厳しい環境にある子供たちを大事にしていこう、そういう地域や学校と一緒に地域とともに警察の力も借りて育てていこうやないかというようなことを願いつつ、今まで取組を進めてきたところです。



近年、少しコロナで活動が停止していますが、休校になったしょっぱなには、小学校からの「先生、全校生徒にマスクの支給がないやろか」ということで、仲間が布切れを買っていち早く届けてりもさせていただきました。やっぱり未来のある子供たちが笑顔で元気に育つ、夢のある学校、地域を作ることが、先ほどここに関わった子供たちが親になってという話がありましたが、そういう

サイクルをすることによって、地域の活性化、そして子供たちの笑顔を拡散できるのではないかと  
思って取組を進めています。

## 子どもが笑顔のまちづくり



## 種まく人

種まく人〈ゴッホ〉



種まく人〈ミレー〉



応援隊の活動からいえば、今17年目を迎えているところです。ささやかな取り組みではありますが、多くの方々と一緒になって笑顔が咲く種まきを、これからもずっと続けていきたいという思いを込めさせていただいて、雑駁になりますが御報告に代えさせていただければと思います。貴重な時間、御静聴ありがとうございました。

## ご清聴

## ありがとうございました



## 講評

**吉中** ボランティア団体マサイというのが正式な名称でしょうか。マサイ族の戸田様、池田様、本当に貴重な報告をありがとうございました。何と云ってもこのマサイのネームの力強さといいますか、私も今日初めてお話を伺ったんですけれども、ボランティア団体マサイという名前は、皆さんにすぐ覚えてもらえると思いますし、それがまた戸田様の本当のお名前だったということで、ちょっと驚きも持っております。すごく防犯活動、ボランティア団体を続けていくに当たって、強力な力といいますかいいお名前だなと思います。ボランティア活動というのは、やっぱりリーダーシップが大切です。今年17年目の活動ということですが、これだけ長く続けておられるというのは、やはり戸田雅威様のリーダーシップあってのものだろうなと感じております。活動の内容についても、挨拶活動、パンフレットのほうでは花植美化運動、「愛あい食堂」というのもあるのでしょうか、いろんな活動をされています。地道に活動されています。マンネリにならないように工夫をされながら、地道にされているんだろうと思います。先ほどの御報告でもありましたけれども「できるときに、できることを、楽しんでやる」という心構えが、すごくこの活動を続けていかれる源になっているのかなと感じさせていただきました。「愛のシャワー」というのは本当にわかりやすく

て、画像でも拝見しましたがけれども、非常にいい言葉ではないかと思います。教育の現場に携わっておられた戸田様ならではのお考えだろうと思うんですけども、やっぱり子供たちには、もちろん衛生の整った環境とか、物的な環境の整備なども大切なんですけども、教育学が教えるところによれば、それではなくてやはり中身の愛のほうなんだ。愛が足りないとやはり子供たちは非行に走ったり、道を反れてしまうことがある。神戸酒鬼薔薇事件の関わった判事さんは、井垣さんだと思うんですけども、居場所が無いこと、自尊感情の無いこと、人生の目標が無いこと、他者からの必要感が無いこと、本当にこれに尽きるのかなと思います。「居場所と出番」ということでも言われますけども、そういうことに気づかれて応援していかれているということが、愛の貯金を生むんだということで、本当にその通りだなと思いました。それから面白いなと思いましたのが、手づくりおにぎりを配布しておられるということ。これはやっぱり学校や家庭の理解がちゃんとあるということで逆にそれがあんだなということで、地域、学校、家庭の中で連携をとっておられるんだなということがわかりました。今後ともぜひこのマサイ族の活動を続けていかれて、PR力という点では最初に申し上げたように、非常に強い力をもっていらっしゃると思いますので、資金調達のところも課題の中に書かれておりますけども、そういったところも工夫していかれて、ぜひぜひこの活動を末永く続けていっていただければと思います。今日はどうもありがとうございました。